



古今和歌六帖標注

四

特別  
イ 4  
3163  
97(4)











万葉四

笠女郎

念西死為物雨有麻世波千遍曾言

者死變益

古今戀一

よらんちんが

こころがへんちんものよしかかひひ

くちきものこくふあきせん

古事記神代卷云次天之水分神

麻理次國水分神云

傳云神名式云大和國吉野郡宇陀

郡宇太山邊郡都祁葛上郡葛木

といおの水分神社ありみくまりけ

社ハコカコおろくあり実ハみ

くまうとくまきまきまきまきまき

あまねるん

枕草紙不祥ハみまのの神とて由

そやうよんちんあやまねるん

古今戀四

よらんちんが

いせのあまねおまやあまがうてふ

こころあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

五拾遺五 人集

あまねるんあまねるんあまねるん

かこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

かこまきかこまきかこまき

天武天皇御

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん

あまねるんあまねるんあまねるん



古今戀三 業平朝臣  
秘めしもの恋をこころみしむらさき  
しやせうあまはなつちかしのうら

はしめよ

たむけ後 傳未詳

後撰戀一 よみ入一  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

伊勢の

同書 家 第五重出  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

伊勢

新古今雜下 權中納言資実  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

新古今 家  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

みり糸

風雅雜下 大江千里  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

後撰 家  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

忠孝

後撰夏 よみ入一  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

古徳三 家  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

或本

ちよみ宇合卿とあるハ、  
万葉七ハ、  
作者不知のこころみ

万七 夫雜五嶋よみ入一  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

なみり

伊  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

かたむねの良女

真洲云此うらみ万葉めまて万葉ま  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき

長門  
うらみしもの恋をこころみしむらさき  
秘めしもの恋をこころみしむらさき



めづかしき心もいふもなきもあはれなる御心もさるる御心もさるる

かたの女房

陸奥のまのいも京もあはれなるおまのいもあはれなるおまのいもあはれなる

古墨減貫之 と古 古墨減貫之 と古 古墨減貫之 と古 古墨減貫之 と古 古墨減貫之 と古

万葉 夫雜 万葉 夫雜 万葉 夫雜 万葉 夫雜 万葉 夫雜

見渡者近物可良石隠加我欲布珠 乎不取不已 見渡者近物可良石隠加我欲布珠 乎不取不已 見渡者近物可良石隠加我欲布珠 乎不取不已

躬恒

拾雜者 淳家 拾雜者 淳家 拾雜者 淳家 拾雜者 淳家 拾雜者 淳家

古墨田伊勢 家 古墨田伊勢 家 古墨田伊勢 家 古墨田伊勢 家 古墨田伊勢 家

此面 之 此面 之 此面 之 此面 之 此面 之

此面 之 此面 之 此面 之 此面 之 此面 之

家 心 家 心 家 心 家 心 家 心

万四笠女郎 第五重出 万四笠女郎 第五重出 万四笠女郎 第五重出 万四笠女郎 第五重出 万四笠女郎 第五重出

同家持 か 同家持 か 同家持 か 同家持 か 同家持 か

伊麻能基等古非之久伎美我於毛 保要深伊可爾加母世年須流須邊乃奈佐 伊麻能基等古非之久伎美我於毛 保要深伊可爾加母世年須流須邊乃奈佐

續千載戀四 貫之 續千載戀四 貫之 續千載戀四 貫之 續千載戀四 貫之 續千載戀四 貫之

万葉九長歌 他妻爾吾毛交牟吾妻爾他毛言問此山乎牛掃神之從來不祭行事叙 万葉九長歌 他妻爾吾毛交牟吾妻爾他毛言問此山乎牛掃神之從來不祭行事叙

拾遺 夫雜 拾遺 夫雜 拾遺 夫雜 拾遺 夫雜 拾遺 夫雜

古墨 小町 古墨 小町 古墨 小町 古墨 小町 古墨 小町

古本 躬恒集 古本 躬恒集 古本 躬恒集 古本 躬恒集 古本 躬恒集

依 之 依 之 依 之 依 之 依 之

か か か か か か か か か か

新田 御書

御書

御書

古徳三家 敏行集 伊

契沖云此は... 續古徳三業平

御書

古徳二家

新徳三業平

新徳二家

御書

古徳一家

新徳一家

元真集

新勅撰 前関白

異本集之集

法華經五百弟子授記品云以無價寶珠繫其衣裏與之而去其人醉卧都不覺知

古今春下

伊勢集 枇杷左大臣 河權

御書

御書

御書

御書

新勅撰 前関白

異本集之集

法華經五百弟子授記品云以無價寶珠繫其衣裏與之而去其人醉卧都不覺知

古今春下

伊勢集 枇杷左大臣 河權

御書

御書

御書

源氏總角卷  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

新勅撰總一 業平朝臣

源氏總角卷  
かたじけなくも御心持の御心持  
かたじけなくも御心持の御心持

古今離別 寵  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
同春下 小野小町  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

古今雜下  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
後撰雜二 武藏  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

續古今雜中 延喜御歌  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

寛新所  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
伊映集  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

河拍木小野小町  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
續後撰二  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

拾遺五  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
後撰二上  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
古意五  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
古意信明集  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

或本  
小野拳守男

古雜一 新撰  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
拾遺五  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
同  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
夫羅子入意平定文  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

伊勢

古意五  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
友則集  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
雜の思の條重出  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
新撰  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
古意五  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

敦慶親王御女

後意五 家  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持  
あはれなる御心持の御心持

或本

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

友名 或本

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

後徳田 家

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

友名 或本

古徳五 家

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

同 同

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

拾遺三 家

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

友名 或本

後徳三 家

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

友名 或本

五雜五 代雜六 家

古今物名  
たつむらひの  
花のさくらさくら  
うらさくら

中津保俊隆巻云  
秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

後徳 押勢 家

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

同徳五 本院 家

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

友名 或本

拾遺五 新古徳五 家

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

和 童

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

色葉和難云

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

友名 或本

式鴟乃山跡乃土丹人二有年念著

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

難可持産

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

万葉十三

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

式鴟乃山跡乃土丹人二有年念著

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ

難可持産

秋風のふくむるあけのあはれ  
いさくうらなむらさき  
あつたけのあつたけ  
あつたけのあつたけ



山家集

あふさふさのさかづきをみれば

古今春下

いさよあまのまのひはまき

くれあふさのさかづきをみれば

後撰戀四

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

玉露一代徳二家

あふさふさのさかづきをみれば

いさよあまのまのひはまき

くれあふさのさかづきをみれば

後撰戀四

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

書紀舒明紀云三年三月乙亥幸于攝津國有間温湯

同允恭紀太子御歌於獲金淵烏志肇珥波夫利云

伊勢物語

あふさふさのさかづきをみれば

いさよあまのまのひはまき

くれあふさのさかづきをみれば

後撰戀四

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

夫維八温泉より

あふさふさのさかづきをみれば

いさよあまのまのひはまき

くれあふさのさかづきをみれば

後撰戀四

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

奥風 或本

あふさふさのさかづきをみれば

いさよあまのまのひはまき

くれあふさのさかづきをみれば

後撰戀四

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

いさよあまのまのひはまき

万葉十二 大夫之聡神毛今者無戀之奴爾吾者可死 觀普賢經云以愛塵故受女人身世世生處或著諸色色壞汝眼為恩愛奴

同 志肇珥波夫利云 伊勢物語 後撰戀四 同 古諺 新撰家 同 信明集 同 傳綺 同 積觀至 同 古本入集 人麿

契沖云延喜大嘗會式十一月卯日  
奉入待門開乃發聲云云也や人の  
あつとてくよとてくはあれむ名も  
あつとてくよとてくはあれむ名も

万葉十一  
將徳雨到者妹之懼跡咲儀乎往而  
早見

同十二  
世間雨餘發跡不念者君之手本乎  
不枕夜毛有す

陰陽式云諸時擊鼓子午各九下丑  
未八下寅申七下卯酉六下辰戌五  
下巳亥四下並平聲鐘依刻數

万葉十一  
朝相聞心河邊之小竹之眼笑思而  
宿者夢所見來

万士  
とや人の名よおねむらひちこむら  
おねむらひちこむら  
おねむらひちこむら  
おねむらひちこむら

同  
思りぬまゝいじふ妹ごうれゝこ  
思りぬまゝいじふ妹ごうれゝこ  
思りぬまゝいじふ妹ごうれゝこ  
思りぬまゝいじふ妹ごうれゝこ

同  
かゝるうらひんねむらひたまたま  
かゝるうらひんねむらひたまたま  
かゝるうらひんねむらひたまたま  
かゝるうらひんねむらひたまたま

同  
時たけちかあつとてくはあれむ  
時たけちかあつとてくはあれむ  
時たけちかあつとてくはあれむ  
時たけちかあつとてくはあれむ

同  
大いふおねむらひちこむら  
大いふおねむらひちこむら  
大いふおねむらひちこむら  
大いふおねむらひちこむら

同  
あさびやうねむらひちこむら  
あさびやうねむらひちこむら  
あさびやうねむらひちこむら  
あさびやうねむらひちこむら

同  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく

同  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく  
しつとてくはあれむ名もあつとてく

大寶積經普明菩薩會云心如怨家  
能與一切諸苦惱

袋草紙卷四云

シレスルイナリノヤノモミチバノ下同  
是ハ和泉式部稻荷ヘマヅリケルニシ  
グレノシケレバ道ニアヘリケル牛飼  
童ノ襖ヲヌギテキセタリケルヲカツギテ  
ウレシキコナリト云テヤニケル後ニ  
コノ童式部ガモトニ來リケレバ十二ゴ  
トニドマツ子ケルニヨメル哥也云  
拾遺戀二  
あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく

ふこそこむらねむらひちこむら  
ふこそこむらねむらひちこむら  
ふこそこむらねむらひちこむら  
ふこそこむらねむらひちこむら

かゝるうらひんねむらひちこむら  
かゝるうらひんねむらひちこむら  
かゝるうらひんねむらひちこむら  
かゝるうらひんねむらひちこむら

おんむらねむらひちこむら  
おんむらねむらひちこむら  
おんむらねむらひちこむら  
おんむらねむらひちこむら

あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく  
あつとてくはあれむ名もあつとてく

新古今歌

素覚法師

ともしよのせの藤をかく形

万葉五

多麻之末能許能可波加美爾伊返  
波阿礼騰吉美乎夜佐之美阿良波  
佐受阿利吉

新古今戀一

坂上是則

そのあやふせやあはれをささげ  
ありとらふてありぬるやう

後撰戀二

よしとらふ

後拾遺戀一

源政成朝臣

うらみきこひのこころもあはれ

後撰下友則 新万葉集

あはれなる心

古意五友則 恨の條重出

あはれなる心

同誹諧よみ 朗

わがこころ

万土 拾遺三人を集

あはれなる心

そ方

人のこころ

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

秋衣ニ云をのおまひの花のさか

まゝして汀ぐれのそよをいづれ

ともかくあまのつゆぬか

古今誹諧

大輔

あけきこひのこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

つゞば多のこころもあはれ

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心



是實難得  
拾遺戀四

吹風よそのまゝにふりまわし  
ひらひらとさらさらたのまゝ

新撰万葉  
夏之風吾歟乎本西被暑者思年人  
之土毛丹芝手申

同  
夏之夜之露那駐曾藕葉之誠之玉  
砥成芝果祢者

伊勢物語  
あゝちかきけいでくせはあゝぬ  
いづたのまゝ人のあゝぬ

古今雜上  
あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか  
山のまゝにけつれずもあゝあゝ

和名抄牛馬類云孫恂曰驛波祢無  
萬突惡馬也

重之集  
まつへのらげはみぎて秋のまゝ  
月のひかりぞ袖よりぬ

伊勢物語  
あゝ風よそのまゝにふりまわし  
あゝこのまゝに人のあゝぬ

あゝ風よそのまゝにふりまわし

あゝこのまゝに人のあゝぬ

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

法苑珠林卷四十九云昔有梵志兄  
弟四人皆得五通自知命促七日必  
死我等兄弟神通自在中畧移山住  
流無所不辨寧當不能避此難也  
雜阿含經卷卅九云欲以髮藕絲旋  
轉於大石

藝文類聚言語部詩云蝸角列州縣  
臺端建朝市

列子湯問篇云江浦之間生糜蟲其  
名曰蟪蛄群飛而集於蚊睫云

詠浦鳩子長歌云相訛良比言成之  
賀雲云

抱朴子論仙篇云無為握無形之風  
捕難執之影

伊勢海之奥津白浪花爾欲得暑而  
殊之家裏為

散木集總上  
あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

あゝあゝまゝにまゝ月のかゝるか

紀貫之

月上女經卷下偈云羅網可用縛猛風

本緣經毗羅摩品云如以網盛風是事甚難

尚書五子之歌云予臨兆民凜乎若朽索之馭六馬

寬平后宮歌合

冬のふゆのちやちや夜もめて

宇津保菊之真卷云春まをまを

教あぬ身はのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

俊頼口傳下

まのりりあまははははは

放光般若經超越法相品云譬如知師持一鏡現若干種像若男若女若馬若象若館若浴池於中示現若干

種

晉書王獻之傳云獻之字子敬少有盛名嘗觀門生博蒲曰南風不競門生曰此即亦管中窺豹時見一班

大智論卷七十九云但有月而無日則万物濕壞但有日無月則万物燥爛日月和合万物成熟

同卷一云譬如大海水欲盡其涯底大集經卷十八云如大海中有羅喉羅阿修羅王亦有其餘衆生之類唯阿修羅王能得其底餘則不得

積經第廿七のちのちあれや

滴をさく如末をを宛加河の中におく河波はひくれ遂に大海にのち其

人まで彼一編をくせしむ如末不思儀智をが大海の中を就て本の一編を是人を還してあし

河海抄蘭

人のちのちあれや

抱朴子詰覽篇云闕滔天之源激不測之流塞之以撮壤障之以指掌也

拾遺賀

もとすけ

女は是のちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

凡河内

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや

あつみのふゆのちのちあれや



土佐日記

又... 代の...

倭姫世紀云葦原中在稻一基生本  
波一基為且末千穂茂也彼稻白  
真名鶴作持廻乍鳴支云  
堀河百首 紀伊

あまの系...  
あつたけ...  
とま...  
母...  
やぶ...

拾遺神樂

よーの  
の...  
の...  
の...

費之 或本名

夫維九鶴家

あ... 代の...  
夫家  
夫家

たみ

古本集

ま... の...  
古本集

深草

貫之集

あ... の...  
貫之集

し

古賀素性集

万代の...  
素性集

費

あ... の...  
續後賀素性代賀家  
の...  
小續  
續家  
下續

拾賀齋宮内侍

色... ね... 升...  
伊勢

伊勢

家

あ... の...  
家

童

あ... の...  
童

貫之集

あ... の...  
貫之集

し

大井... の...  
大井

い... の...  
い

梓... の...  
梓

ねま

新吉賀家

山... の...  
新吉賀家

山... の...  
新吉賀家



佛説弟子先復生經營一云恒水邊  
流沙尚可斗量盡知其斗數佛恩不  
可得量也

此ら續後撰か元輔とのせられ  
ハあやまらるべし他ハ伊勢と  
なり

拾貫之家 拾貫之家

久しきと縁ぞよきあはれむとあるはびく松とくごいさ  
貫之集

同 夫雅二山貫之

同 山城 新吉賀 家新 家新 家

同 家

同 家

いぢ 或中

同 續後撰 清原元輔 家 冊

同 貫之集

同 同

同 同

同 同

ぬぐ 或中

同 同

同 同

同 同

同 同

かよ たり 申海言兼輔男

同 同

同 同

み 山 縁

同 同

後撰雜二 枇杷左大臣











此の十首先におかぬていつ  
あづかるといふは二つ一つに

かたらし女

人麻呂

真淵云此おもふをこのうら拾遺  
人九とありされど万葉集に人九  
妻のこころをこれに

万葉四 山口女王  
不押念人乎也本名白細之神漬左  
右二哭耳四泣裳

万二新古覇族 家 夫雑十條  
後 万葉集に新古家

同 家 万葉集に新古家

同 拾遺二 家 万葉集に新古家

同 記 万葉集に新古家

同 土 万葉集に新古家

同 四 皇朝臣金村 夫雑三山

同 十一 万葉集に新古家

同 十五 家持 万葉集に新古家

椎本おのり  
万葉集に新古家

白雲の山に 万葉集に新古家

保良文

古離別 後六 万葉集に新古家

後離別 万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

万葉集に新古家

かたらし

古今賀 在原業平朝臣  
拾遺別 万葉集に新古家

万葉八 大伴田村大壤  
古郷之奈良思之岳能霍公鳥言告

告遣之何如告すハ

真淵云このまのまのれどつらまの

素性集

拾遺の作者源兼澄といふ人あり

俊頼口傳上ふまの唯言のこの月

古事記成務天皇記云更取固之大

新五 ヤチノヒキ新 ミヅノハ新

夜不あまびあひるる月とせふ入

わかれはねのののののののののの

後雜一 口傳 ミヅノハ新

同 ミヅノハ新

万四土師宿祢水通 童 夫雜古

真淵云此野平ののののののののの

和名抄蟲夢類云兩雅注云璫瑜

拾遺最章中

古雜別 ミヅノハ新

万三長歌 夫雜古 ミヅノハ新

新十羈旅 土 ミヅノハ新

新勅冬 家 ミヅノハ新

夫雜而後麻 ミヅノハ新

同大旅 家 神 ミヅノハ新

後離別 大捕 ミヅノハ新





契沖云此... 西行の... 万葉九

書紀應神紀云五年八月令諸國使海人及山守部云

万葉九 天原雲無父爾鳥玉之宵渡月乃入卷怪毛

万三家持 新古秋下 夫盤我老 家 今... 妹を思ひて...

同 家 妹を思ひて...

同 家持集 妹を思ひて...

同 大伴書持 夫盤我老...

同 三申 家持集 妹を思ひて...

同 家持 妹を思ひて...

同 二角夫 夫盤我老...

同 九 妹を思ひて...

同 七 妹を思ひて...

同 二入丸 家 妹を思ひて...

同 拾哀傷 家 妹を思ひて...

同 河邊官人 妹を思ひて...

人丸

同 河邊官人 妹を思ひて...

同 拾哀傷 家 妹を思ひて...

同 同 妹を思ひて...

同 夫盤我老 妹を思ひて...

同 七 妹を思ひて...

同 古哀傷 妹を思ひて...

同 万二入丸 妹を思ひて...

同 妹を思ひて...

~~~~~

家 妹を思ひて...

契沖云か... 拾遺... 未勘... 但万... 國臨死時自傷作歌とあれば鴨山石見於可考





此のめづる句は...  
たぐひ...  
人官庫の清本...  
あり

はしむき

家  
いそのよふく...  
家

いし

續後雜下 古本家 貫之集  
ぬい...  
下ルれ續

みん

家  
う...  
家

たぐい

拾遺雜秋  
よ...  
な...  
此...  
上...  
此...  
上...  
此...  
上...

古哀傷 拾遺傷... 貫之集  
首...  
家

同 家  
ぬ...  
同

同 同  
い...  
同

同 同  
い...  
同

伊勢 或本

家  
い...  
家

い

家  
い...  
家

家  
い...  
家

續後雜下 代雜五 家  
い...  
家

い

同 伊  
い...  
同

朗 なく朗  
い...  
朗

大  
い...  
大

古哀傷 小野堂 新撰  
い...  
古哀傷 小野堂 新撰

契沖云...  
子の...  
時...  
後...  
下...  
拾遺總一  
あり

宝物集第二云まねのあしとく  
くもぬのたのむをまねがまね  
まねのまねはまねのまね

古哀傷上野峯雄  
海のまねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね  
同紀前并 新撰 伊

貫之集

くもぬのたのむをまねがまね  
下同

万七 夫秋六紅葉まねのまね  
河如  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

古哀傷阿闍世五皇子 新撰  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

万三高橋朝臣  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

古哀傷まねのまね  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

契沖云和をまねにけりまねがまね  
一三十一文まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

同貫之家朝臣  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

後哀傷  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

長歌 七

まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

五以老身重病延年辛苦及思兒等  
歌七首 歳一節とまねのまねはまねのまね  
三十一まねのまねはまねのまね

万四串三香原離宮之時得娘手作歌  
山城  
まねのまねはまねのまね  
まねのまねはまねのまね

山のべりもみ芽一帖さばらる

史記大宛列傳贊云昆崙其高二  
五百餘里日月所相避光明所相  
也  
古事記垂仁天皇記云又天皇以  
宅連等相名多遊摩毛理遣常世國  
令求登波士玖能迦玖能木實云

万葉六

笠朝臣金村

瀧上之御舟乃山雨水枝指四時雨  
生有刀我乃樹能弥繼嗣爾萬代如  
是二二知三云

同三  
併立乃見果石山跡神代從人之言  
祠云

あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

契沖云長歌のうちいささうみどりき

ちしん小長歌のささや

万葉四

岳本天皇御製

神代從生繼來者入多國爾波瀾而  
味村乃去來者行跡吾戀流若雨不  
有者書波日乃久流留麻豆夜者夜  
乃明流寸食念乍寐宿難爾登阿可  
思通良久茂長此夜平

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

あさひのやまの あさひのやまの せむら あさひのやまの かたむね あさひのやまの けしき あさひのやまの

同十一  
吾妹子兩相縁乎無駭河有不盡乃  
高嶺之燒管香將有



万葉二十

大伴家持

八千種雨久佐奇乎字惠且等伎其  
等雨佐加牟波奈守之見都追思努  
波奈

催馬樂

伊勢海

伊勢乃宇美支与支名支佐尔之保  
加比尔奈乃利曾也川末牟加比也  
比吕波牟多末也比吕波牟

ふるまおほのこころもあはれなるかたはらむに  
しきもたねおほきうーかきかたはらむに  
いせのほのぼの<sup>うらのたけひ古</sup>むらひもしきかたはらむに  
まゝにさうかきむらひもあはれなるかたはらむに  
おほのぼのなるかたはらむに  
かゝるまゝなるかたはらむに  
ふるまおほのこころもあはれなるかたはらむに

おたが歌

みづかき

ふるまおほのこころもあはれなるかたはらむに  
しきもたねおほきうーかきかたはらむに  
いせのほのぼのむらひもしきかたはらむに  
まゝにさうかきむらひもあはれなるかたはらむに  
おほのぼのなるかたはらむに  
かゝるまゝなるかたはらむに  
ふるまおほのこころもあはれなるかたはらむに

拾遺戀四

よみ人あはれ

いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ

古雜体

家

いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ

文選述祖德詩云遙々播清塵清塵

竟誰嗣

古今雜下

よみ人あはれ

風のうへふありうへふめぬちりれまハ  
ゆ〜もま〜まぬぬ〜ま〜  
神仙傳云時人傳八公安臨去時餘  
藥器置在中庭雞犬舐啄之盡得昇  
天故雞鳴天上大吹雲中也

いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ  
いらぬやいらぬのめまされいらぬ  
あひーま人もいまひもあはれ

楚辭九辨云君之門以九重補注云天子有  
九門謂關門遠郊門近郊門城  
駱賓王詩云山河千里國城關九重



信明集

おのづから... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり...

あはれむら... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり...

奥を抄下云旋頭ハ上より入ると... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり...

あはれむら... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり...

目六廿六

やまてり... ありまらふり...

万葉十二  
如此為而曾人之死云藤波乃直一  
即耳見之人故爾

同八  
皇之御笠乃山能黄葉今日之鐘礼  
爾散香過奈年

新勅撰釋教 蓮生法師  
ほのせめて... ありまらふり...

源氏玉鬘卷

万葉十  
梓弓引津邊有莫告深之花咲及二  
不倉君哉

あはれむら... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり... ありまらふり...

目六廿六





